

Dokkyo Picks

獨協と未来の架け橋となる広報誌

2024 AUTUMN
Vol.486

11月号

DOKKYOのDNA 国際教育編

外国語教育140年余りの歴史を背景に
特別対談 獨協大学学長×国際交流センター所長

獨協大学が進める これからの外国語教育

AI時代の外国語教育／
「語学の獨協」が拓く「獨協ツーリズム」／
大学の外へ～国際教養学部の新プログラム～

卒業生に聞く！ 未来への羅針盤

CAMPUS NEWS

「学生による授業評価アンケート」結果報告
ぶらりらいぶらり

RECOMMEND BOOKS

DOKKYO SDGs



歴史を知って、未来を探る



創立60周年特別企画

DOKKYOのDNA

国際教育 編

外国語教育140年余りの歴史を背景に

国や地域を越え、

他者と共に

地球課題を解決する

人材を育てる



前沢 浩子
(まえざわ・ひろこ)

獨協大学着任後、英語学科長・国際交流センター所長を歴任。2024年より学長に就任。



野原 ゆかり
(のはら・ゆかり)

国際教養学部言語文化学科教授。2024年より国際交流センター所長に就任。

言葉で世界を広げる教育

「語学の獨協」として知られる獨協大学の教育の特色を改めて教えてください。

前沢 獨協大学の教育の歴史は、獨逸学協会学校設立から今日までの141年間で大きく3つに分けられます。1883年の設立から獨協大学開学の1964年までは、西洋の学問を積極的に取り入れる時代、その後、外国語を習得して国外に出て、多方面から日本経済に貢献する人材を育てる時代、そして21世紀に入ってから、地球上のあらゆる地域に共通する課題に取り組む人材を育てる時代の3つになります。いつの時代も、外国語の運用能力を身につけるだけでなく、

「言葉を使って何をするか」に重きを置いた教育を行ってきました。

野原 学外から見た獨協大学の姿は、複数言語を身につけたグローバル人材を育てる大学であり、学生たちの意欲がとても高いという印象です。外国語学部や国際教養学部はもちろん、経済学部や法学部でも、学生たちは専攻の学びと語学を結びつけて学修を進め、前沢先生が話された「言葉を使って何をするか」という力を磨く姿は頼もしいです。

——社会の変化とともに、外国語教育も変わってきているのでしょうか。

前沢 ここ数年でデジタル化が急速に進んでいます。生成AIを使えば瞬時に大量のテキストを翻訳できるので語学学習は不要になる、という見解もあります。しかし、むしろその逆だと考えています。AIの翻訳で意図したことが伝わるかを見極めるには、これまで以上に高度な語学力が必要だからです。また、社会が変化しても、国際交流やビジネスなどで個人間の関係をつくる際、相手の背景を理解する言葉の力が大切であることは変わりません。外国語教育の重要性は今後、より高まっていくでしょう。

野原 同感です。グローバル化が進む社会では、多様な国や地域の人々と協働して仕事を進める機会が増えています。効率よく、円滑に仕事を進めるために、語学力とAIをうまく活用していくことが大切です。AIに的確な指示を出せる人材を育てることも、これからの外国語教育や国際教育の「環」ではないでしょうか。



環境問題や人権問題への意識を磨く

——ポードレス化する社会で、学生たちに期待することを教えてください。

前沢 今、世界中で問題になっているのは環境問題や人権問題です。本学では、国際教育としての位置づけで、全学部で環境教育や人権教育を行っています。今後も適宜、カリキュラムを更新していくので、学生たちにはポードレス化する社会における人類や地球環境の未来について他者と問題意識を共有し、より良い社会を築く力を身につけてほしいです。

野原 本学には国際交流の機会が豊富にあります。国際交流センターでは、留学支援をはじめ、派遣・受け入れの留学生へのサポート、海外大学との学術交流やインターナショナルフォーラムの開催などを行っており、学生たちに少しでも国際交流の魅力に触れてほしいと考えています。

——地域との交流も活発です。

前沢 はい。大学のある草加市や埼玉県、福島県田村市など地域とのつながりが強い大学です。草加市とは毎年、「草加国際村一番地」という国際交流フェスティバルを開催しています。草加市で暮らす外国籍市民と学生たちが、世界各地の食生活や文化を一緒に楽しむことができる多様性に富んだイベントです。草加市に大学があるからこそできることです。紛争や迫害から逃れるため、日本で働くためなど、さまざまな背景を持つ人々と交流することで、誰もが安心して平等に暮らせる地域づくりについて、学生たちが考えるきっかけになっていると思います。

グローバル市民としての成長を後押しする

——今後、獨協大学の国際教育はどのように発展していくのでしょうか。

前沢 グローバル市民として国や地域を越え



た問題に意識を向け、その解決に力を尽くせるような資質を磨く教育プログラムにアップデートしていきます。実直で地に足のついた本学の学生たちが、国内外で信頼を得て活躍するような成長を遂げることを願っています。

野原 獨協大学の卒業生たちは、大きな自信を持って社会へ飛び立っています。それは、15言語を学べる外国語教育、多様な文化や価値観への理解を深める国際教育の成果ではないでしょうか。これからも、学内外での国際交流や留学サポートなどに積極的に取り組み、学生たちの人間性向上につなげていきたいです。

獨協大学が進めるこれからの外国語教育



AI時代の外国語教育

岡田圭子教授 ー 外国語教育研究所所長

AIと人間の協働を考える

外国語学習と生成AIの利用については、大変多くの議論があります。2017年に開始されたDeepL翻訳は多言語に対応し、非常に精度の高い翻訳を提供しています。さらに2022年に登場したChatGPTはプロンプトと呼ばれる指示文を適切に示すことで、さまざまな要望への回答を瞬時にしてくれるサービスです。これらは専門知識がなくても利用でき、無料版もありますので、大学生にとっては学生生活における心強い味方とも言えます。

一方で、大学で外国語教育に携わる教員は難しい対応を迫られています。イギリスのある大学院は、シラバスの評価項目からAnnotated bibliography(文献解説)を外さざるを得なかったそうです。文献解説というのは参考文献を一定のスタイルで整え、内容のまとめと自分のコメントを付けるもので、英語圏の大学院の基礎教育では必ずと言ってよいほど課されるのですが、ChatGPTの登場により、リターンキーを押すだけで完成する状況が出現してしまったのです。

なプロンプトの作成に取り組み、というのは皮肉な想像ですが、これまで広く普及した生成AIの使用を禁止することは現実的とは言えないでしょう。教員は生成AIを活用して学生の力を伸ばすことにも積極的に取り組んでいく必要があると思います。また学生は外国語学習にAIを用いるなら、それは楽をして課題を完成させるためではなく、自律的に外国語を学ぶ手伝いをしてもらうためだけに使われません。そして、AIが不正確な不適切な回答をしてきたときにそれを見抜くことのできる基礎力と判断力を養わなければなりません。

生成AIと共存する学習環境を盛り上げていくことを意図し、外国語教育研究所は去る6月22日に東京大学名誉教授のトム・ガリ先生をお招きしました。「AI時代の外国語教育ー言語と人間はどう変わるか」というテーマでご講演くださったガリ先生は、AIの登場により、人間の教師の役割が「知識の伝達者」から「学習のファシリテーター(計画進行役)」に変わる可能性を示唆し、教育におけるAIと人間の協働の重要性を強調されました。「語学の獨協」として、私たちがこれからAIとどのように協働していけるか、取り組みを続けたいと考えております。



「語学の獨協」が拓く「獨協ツーリズム」

鈴木涼太郎教授 ー 外国語学部交流文化学科

多角的で専門的なツーリズムの学びによるキャリア形成

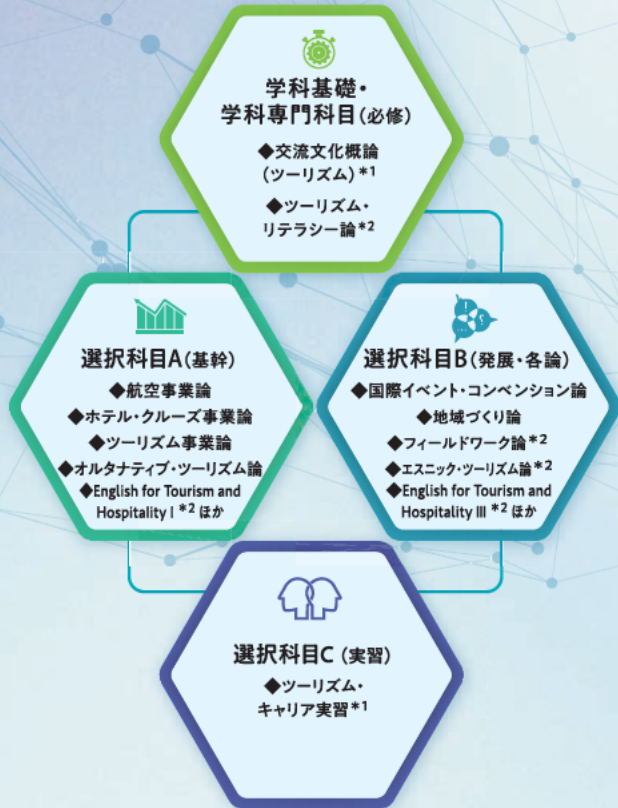
ご存知の通り、獨協大学の外国語教育は、これまで社会から高く評価されてきました。とりわけ、外国語能力が必要とされるツーリズム関連産業では、多くの卒業生が活躍しています。創立50周年時に企業別卒業生の就職数ランキングを作成したところ、2位日本航空(JAL)、3位全日本空輸(ANA)はじめ、JTBやHIS、プリンスホテルやJ.R.東日本など、ツーリズム業界のトップ企業が数多くランキングすることになりました。

交流文化学科は、このような獨協大学の強みを活かして、学びの柱の二つに「ツーリズム」を掲げ

2009年に開設されました。それ以来、多彩なツーリズム関連科目を展開しながら、観光業界にもたくさん卒業生を送り出しています。

2024年度以降入学者を対象にスタートしたツーリズムキャリアプログラムは、交流文化学科でのツーリズムの学びをさらに発展させるための取り組みです。ツーリズムの学びの系統化、学修成果の可視化、学生の意欲向上を目指し、指定の条件を満たした学生にはプログラム修了認定証が贈られます。その総仕上げとなる科目「ツーリズム・キャリア実習」では、ゲストスピーカーによる講演や学外での施設見学などが豊富に用意されており、キャリアと結びついた実践的な学びが展開されます。また、一部を除き他学部他学科の学生も履修可能な科目もありますので、全学の皆さんもぜひ「獨協ツーリズム」の学びを体験してみてください。

● ツーリズム・キャリア・プログラム 対象科目



*1 他学部他学科履修不可
*2 履修条件あり

「海外実践プログラム(国際教養学部言語文化学科) 大学の外へ

浅山佳郎教授 ー 国際教養学部言語文化学科

学内に留まらない学びのフィールド

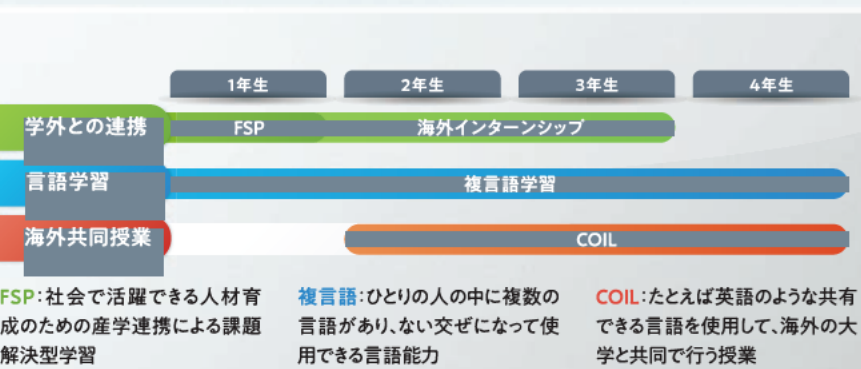
国際教養学部は、複言語主義(Burlingualism)と教養主義(Collism)とを学部理念としてカリキュラムを組んできました。複言語主義とは、母語を含めた3言語使用を目指すことであり、教養主義とは、哲学などいわゆる基礎学によって価値判断の基準をもった「人間形成」を目指すという考え方でした。これらが学部カリキュラムの中心であることは今でもなお揺るがない共通認識です。

しかしそれに加えて、私たちはさらなる変化が必要だと考えました。それは大学での学習と研究をキャンパス内に留めておくのではなく、それを外の世界で試してみ、その結果をまた大学に戻すという、サイクルとしての学修を可能とするカリキュラムを形成すべきだということです。

それが「海外実践プログラム」です。今のところ2つの内容を計画しています。

1つは海外でのインターンシップです。1学期分、3ヶ月程度の長期にわたるもので、教養主義の学部だからこそ、卒業後を意識したカリキュラム上の仕掛けが必要です。そして複言語主義だからこそ、どれだけ海外での経験に関われるかという挑戦です。外の世界で「失敗」して、実力不足を認識し、あらためて大学で学修することに結び付けてほしいと期待します。なおその結果は科目として最大12単位まで評価されますので、原則的には1学期を海外で過ごしても4年で卒業できます。

もう1つはインターネットを利用した海外の大学と共同で行う課題解決型授業「COIL」です。いまのオンライン・ドネシアやベトナムといった東南



アジアの大学を中心に計画を立てています。国際語としての英語を共有する海外の大学生たちとチームを形成し、教員から出される課題に対してディスカッションしながら解決案を作り出してください。異言語で異文化の学生とこれだけ協働できるか、このチャレンジの実践的な意味は大きいと思います。

私たちは、国際教養学部の本質から、本学部での学修は「外」との関わりが大切だと考えます。それを具体化するプログラムを用意し、本学部は、そういう「外への志向」を持った方の挑戦を歓迎します。

学生時代に修得した

“生きたドイツ語”をベースに、

生涯にわたって

日独交流に取り組みたい

ドイツ学術交流会 (DAAD) ※1 東京事務所
ドイツ 科学・イノベーション フォーラム東京
(DWIH東京) ※2

竹内 優さん

(ドイツ語学科 2017年卒業、
外国語学研究科博士前期課程
ドイツ語学専攻 2020年修了)

大学院修了までに2回、ハイデルベルク大学に交換
留学。自身の経験を活かし、ドイツ留学希望者の支援
および、日本とドイツの学術交流・科学技術交流に
携わり、両国の架け橋となる仕事にまい進中。

※1 DAAD…学生・研究者間の国際交流のための最も重要な助
成機関の一つ(本部ドイツ・ボン)。ドイツから海外へ、または海
外からドイツへ留学・研究に来る学生や研究者への奨学金給
付をはじめ、国際交流促進を主目的に世界約70か国に拠点が
ある。主にドイツ外務省や連邦教育研究省、EUIなどからの拠
出金により運営されている。

※2 DWIH東京…世界6か所にあるDWIHの一つとして2010年に
設立。ドイツの大学、研究機関、研究開発を重視する企業を包
括し、学術、研究、およびイノベーションの拠点としてのドイツを
日本で紹介。2017年からはDAADが運営。

各業界で、時代をリードする存在として活躍する卒業生にインタビュー。今回は、在学中に身につけたドイツ語や留学経験を活かし、日本とドイツの学生・研究者の国際交流を促進する仕事に取り組む竹内 優さんにお話を伺いました。

現在の仕事を選んだ理由と、仕事内容について教えてください。

大学3年次と大学院2年目に、それぞれ1年間ドイツに留学しました。2回目の留学中、現在の職場であるドイツ学術交流会(DAAD)東京事務所のSNSで留学生生活をレポートする機会があり、接点を持つようになりました。国際交流を推進する公的機関や官公庁で働きたいと考えていたので、DAADが職員を募集していると聞き、迷わず応募しました。

仕事内容は、広報・マーケティング担当としてのウェブサイトやSNSの運営がメインです。DAADでは、チームメンバーと一緒に毎月、ドイツ留学や研究に関するYouTubeライブの企画・配信をしたり、マーケティングリーダーとしてミーティングの実施、取りまとめを行ったりしています。ドイツ 科学・イノベーションフォーラム東京(DWIH東京)では、主催・共催 後援イベントの企画・運営をメンバーと一緒に取り組んでいます。

現在の仕事で大変な部分はなんでしょう。また、やりがいを教えてください。

一人1ポジション制の職場なので、担当する広報・マーケティングの仕事は、私一人で完結しなければなりません。任される業務や責任の領域が広い点がやりがいであり、大変なところでもあります。また、DWIH東京の仕事では、英語でコミュニケーションを取る研究者が多いため、ウェブサイトの告知文や各種イベントで英語を使う機会が多く、高いスキルが求められます。そのため、高校生の頃から始めた英会話レッスンを今も続けており、それが英語力の核となっています。

忙しい毎日ですが、私の情報発信によってドイツ留学や研究のすばらしさが伝わること、留学相談に乗った高校生、大学生、保護者の方が希望に満ちた表情に変わっていくところを見られたりすると、心からうれしく感じます。

仕事を行う上で、最も大事なのはどのようなスキルや力でしょうか。

私の仕事の土台は、ドイツ留学や研究の良さを日本でもっと広めたい、両国の学術・科学技術交流に貢献したいという熱い思いです。その上で、魅力を発信する立場として、人を惹きつける文章力やクリエイティブなアイデアが必要だと感じています。また、時間管理ややるべきことの優先順位をつけ、効率よく仕事を進める力も大切です。

学生時代に力を入れて取り組んだことを教えてください。

ドイツ語学科の普段の授業です。読む、聞く、書くだけでなく、話すことやプレゼンテーションの仕方などドイツ語を多方面から学び、実践的に使えるドイツ語が身につきました。印象に残っている授業の一つは、英語が母語の先生から、ドイツ語圏の文化や歴史などさまざまな知識を英語で教わる授業です。とても新鮮だったことを覚えています。多言語へと学びを広げる獨協大学ならではの学びでしょうか。

また、留学に向けた準備にも力を入れました。ドイツに関わることであればなんでも取り入れたい、という気持ちだったので、授業外

でもできるだけドイツ語に触れるよう心がけていました。長期休暇には外部機関でドイツ語を学び、ドイツのYouTubeやPodcastを視聴するなど、今振り返るとドイツ漬けの日々でした。

留学先では、どのようなことを学びましたか。

2回とも、ハイデルベルク大学に留学しました。学部生の時は、とにかく語学力を上げるために、留学生向けのドイツ語コースで集中的に学修。その後、政治・経済の授業などを現地学生と一緒に受講しましたが、専門的な内容をドイツ語で理解するのは非常に難しく、知識・語学力の面で未熟さを痛感していました。大学院生の時は、入学当初から目標にしていた、日本語、ドイツ語、英語の会議通訳養成コースでしっかりと学びを深め、充実した留学生活を送ることができました。

獨協大学の国際教育は、竹内さんにとどのような影響をもたらしましたか。

私にとってドイツやドイツ語学修は、人生をポジティブに転換させてくれたもの。学べば学べば、ドイツへの興味や関心が広がり、素敵な人とのつながりができ、チャンスが舞い込むという良いサイクルが生まれていきました。それは、それまでに感じたことのない感覚で、この機会を絶対に逃してはいけないと、自然と学修にも熱が入っていたのです。

獨協大学は、学ぶ意欲を刺激し、学ぶ姿勢を応援してくれる大学です。学科で制作した雑誌「Post」の企画・編集の経験は、広報・

AFTER TALK

ドイツ最古の大学の街 ハイデルベルクでの留学体験記

竹内さんが留学したドイツ・ハイデルベルクは、ドイツの中でもっとも美しい風景の街の一つと言われています。高台に建つハイデルベルク城、街中を流れるネッカー川の美しさ、旧市街と周囲の自然が一体となった景観に、竹内さんは「絵本の中の世界にいるような毎日でした」と話してくれました。



本誌に載せきれなかった記事をnoteに掲載しています! ぜひご覧ください!

note



オープンカレッジ特別講座 『ドイツ現代美術の巨匠 アンゼルム・キーファーの世界 記憶、神話、錬金術、そしてメランコリア』

7月20日、E-102(東棟1階)でオープンカレッジ特別講座が開催された。主に社会人を対象とした生涯学習講座「オープンカレッジ」の無料講演会で、事前の申し込みにより121名が来場し、併用したオンライン配信では199名が受講した。

講師は青山愛香ドイツ語学科教授。川崎聡史同学科専任講師がコメンテーターを担当。講座では、青山講師がキーファーの作品から、「負の歴史」を扱う歴史的背景やその主題が持つ意味を考察した。川崎講師は、ドイツ現代史の視点からキーファーの歴史的立ち位置について解説した。

受講者アンケートでは講座内容に満足したという感想が多数寄せられ、アンゼルム・キーファーの世界を読み解く機会となった様子が伺えた。



2024年度「子ども大学そうか」開催

8月3日、西棟で「子ども大学そうか」の入学式と授業が行われた。抽選で選ばれた草加市内の小学5・6年生50名が5回の授業を受ける。入学式で前沢浩子学長は、「知らないことはどんどん質問してください。勉強するのが面白いなと思ってもらえるような子ども大学そうかであるように願っています」と挨拶した。

授業は二宮哲言語文化学科教授による「スペイン語であそぼう!パモス!」が行われた。「スペイン語ってどんな言葉?」という話から始まり、挨拶や単語の発音練習をした。最後はグループでスペイン語で足し算と引き算の問題を考えた。他のグループが考えた問題に耳を傾け、元気に回答する様子が印象的だった。世界の言語に興味を持つきっかけになる授業だった。



第8回図書館講演会 「ベル・エポックの女性たち」を開催します

日時:2024年11月6日(水) 15:30~17:10

講師:阿部 明日香 准教授(外国語学部フランス語学科)

場所:獨協大学 天野貞祐記念館2階 A-207教室(定員300名)

対象:在学生・教職員・一般の方

※事前申込は不要です。直接会場にお越しください。



フランス語で<美しい時代>を意味する「ベル・エポック」。19世紀末から第一次世界大戦前は、パリが「芸術の都」というイメージを世界中に伝播させた時代でした。このベル・エポック期は、女性の社会進出が進むと同時に、女性性が消費の対象となった時代でもあります。本講演では、絵画、ポスター、雑誌などの視覚資料を用いて、この時代の女性をめぐるイメージを中心に概観します。

※11月6日(水)~12月20日(金)、図書館2階「貴重書・特別資料展示コーナー」で関連図書を展示します。

外国語教育研究所 第14回公開講演会を開催

6月22日、外国語教育研究所(所長:岡田圭子経済学部教授)は、東京大学名誉教授・同大学グローバル教育センター特任教授のトム・ガリー(Tom Gally)氏を招き、「AI時代の外国語教育—言語と人間はどう変わるか—」というテーマで、第14回公開講演会を対面・オンラインのハイブリッド形式にて開催した。

ガリー氏は、外国語教育では今後AIと人間の協働が重要になると予測し、人間ならではの新しい教師の役割を見出す必要がある、と論じた。

研究者、教員、学生、一般の方々を含め、学内会場とZoomウェビナーで合わせて420名の参加があった。質疑応答には多くの質問が寄せられ、充実した講演会となった。



経済学部藤山ゼミ主催で 草加高校との高大連携行事を実施

7月16日に、経済学部国際環境経済学科・藤山英樹ゼミの主催で、草加高校との高大連携行事が行われた。47名の草加高校生(1年生・2年生)が参加。草加高校の市川啓二先生、大久恵利先生にもご同行いただいた。

行事は3部構成で行われ、Part1では高校と大学の違いについて、Part2ではゼミ生によるゲーム理論の解説が行われ、自分の有利な状況に導く方法や、相手の立場になって考えることの重要性が説明された。最後のPart3では、藤山教授が英語によるスピーチで、Part1と2の内容をまとめた。狙いは、高校と大学の勉強の違いを認識することで、より豊かな大学のイメージを持ってもらうことであった。

藤山教授は「積極的に参加いただいた草加高校の先生・生徒の皆様には感謝しており、何かを伝えることは、我々自身が深く学ぶことでもあり、大変有意義な機会であった」と感想を述べた。



第26回全国高校生ドイツ語 スピーチコンテストを開催

10月6日、外国語学部主催「第26回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」を獨協大学コミュニティスクエアにて開催した。

今回は応募総数214名のうち、予選審査を勝ち抜いた20名(第1部朗読部門10名、第2部プレゼンテーション部門5名、第3部フリースピーチ部門5名)が本選の舞台上でハイレベルなスピーチを披露した。

審査の結果、第1位の最優秀賞には、<第1部>エルホスニー憲宗さん(東京都・駒込高等学校)、<第2部>白濱遼平さん(神奈川県・慶應義塾湘南藤沢高等部)、<第3部>浅原生水さん(東京都・渋谷教育学園渋谷高等学校)が選ばれた。



2024年度9月卒業式を挙行

9月20日、2024年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、90名の卒業生が本学を巣立った。

前沢浩子学長は式辞で「本学の創立者である天野貞祐先生はドイツの哲学者カントの研究者であり、翻訳者でもありました。そのカントは内なる理性にしたがって行動することが、自由に生きるためのもっとも大切な条件だと主張していました。今日は皆さんの出発の日です。今日から皆さんの人生が新たに始まります。皆さんが、勇気を持った一人ひとりの自由な市民として出発してくれることを信じ、願っています」と述べた。

また、卒業生を代表して中里麗さん(交流文化学科)は「フランスのカレーという街にある難民キャンプでのボランティア活動等を通して、心で通じ合える素晴らしさを感じることができ、この4年半で大きな人間へと成長できました。大学生生活で出会ったすべての方々に心より感謝いたします」と謝辞を述べた。



■学士
独11名、英20名、仏5名、交5名、言18名、清13名、
営10名、環6名、律1名、関1名、総0名 計90名

獨協大学英语教育研究会(DUETA) 講演会をハイフレックス形式にて開催

7月6日に獨協大学英语教育研究会(DUETA)主催の第28回講演会「ライティング力とは何かを考える—小中高を繋ぐ指導を目指して—」が対面とオンライン併用のハイフレックス形式にて開催された。講師は、英語ライティング論や英語授業論を専門とされている工藤洋路氏(玉川大学文学部教授)が務め、およそ55名が参加した。参加者からは「現場に根付いた現実的な話なので興味深かった」「ライティングの指導において難しさを感じていた部分について解決のヒントをいただくことができた」といった声が寄せられた。



DOKKYOドイツフェスを開催

8月3・4日に、創立60周年を記念し、「DOKKYOドイツフェス」を本学主催で開催した。本イベントは、ドイツ語圏の文化を広く紹介し、日本とドイツの文化交流を促進することを目的としている。会場は獨協大学コミュニティスクエア、西棟、天野貞祐記念館、東棟などで、2日間で延べ2,600名を超える来場者があり、速くは福岡からの参加者も見られた。松原団地記念公園には13名の飲食店がドイツ料理やビール、ワインを提供し、近隣住民にも獨協大学とドイツ文化を知ってもらう良い機会となった。

来場者に対するアンケート結果からも高い満足度が示されており、多くの参加者が多様なプログラムを通じてドイツ文化に対する理解と興味を深めたと回答した。また、学生スタッフの対応の良さについても好評を得ており、学生スタッフと一般の方々との良いコミュニケーションの場となった。

どのイベントも五感で楽しむ体験とそれを解説する大学教員のコラボレーションがうまく機能していると、高く評価された。卒業生講演会やDAADによる留学説明会も盛況だった。また、小中学生向けドイツ語ワークショップもたくさんの子どもたちが参加し、ドイツ語に触れて楽しんでもらうことができた。

来場者の声の中には「草加松原には、獨協大学があるからドイツのことで街を盛り上げたい」という意見もあり、草加市で獨協大学がドイツにまつわるイベントを行ったことに大きな意義があったと思われる。



オープンキャンパスを開催

6月9日、8月3・4・24・25日、10月6日に、来場型のオープンキャンパスを開催。高校3年生に加え、高校1・2年生や保護者など、6日間で計12,815名の来場があった。

授業体験やキャンパスツアーのほか、在学生トークライブなどの企画に、多くの来場者が参加した。当日の運営にあたった学生スタッフの中條愛文さん(済3年)は「来場者の皆さまが、目を輝かせて笑顔でキャンパスを歩かれています姿がとても印象に残っています」と語ってくれた。



第6回日墨学長会議に 前沢学長が参加

9月4日から6日までメキシコシティで開催された第6回日墨学長会議(Sixth Mexico-Japan Rectors Summit)に前沢浩子学長と、国際教養学部の浦部浩之教授が参加した。

日墨学長会議は日本とメキシコの学長が集まり、両国間の学術交流や大学間協働の活性化を促進する目的で、2011年に始まり、原則として2年に一度、日本とメキシコで交互に開催されている。今回の会議の全体テーマは「アカデミア↔産業:現在のグローバルな課題に共に立ち向かう」。

前沢学長は"Jobs of the Future: challenges and opportunities"というトピックのパネル・ディスカッションに参加し、人口減少を迎えた社会では、グローバルな視点とともに、地域社会の持続可能性を視野に入れて、大学と産業界が協働する必要があるという趣旨の発表を行った。その際に、経済学部の高安ゼミが行った草加市の地場産業や福祉施設との協働学修の実践例を紹介した。



本学の先生方が
執筆された新刊情報をお届け！

RECOMMEND BOOKS

2024 AUTUMN

※価格は税別

RECOMMEND 03

明田川 聡士(言語文化
学科准教授)分担執筆
「中国語現代文学案内
中国、台湾、香港ほか」
ひつじ書房 2024年3月 3200円

本書は、中国および台湾、香港、東南アジア等の代表的な中国語作家とその作品を紹介し、広い視点で中国語圏の現代文学を知ることができるよう編まれた案内書です。作家ごとの「作家ファイル」や「邦訳リスト」を用意し、便利で信頼できるミニ事典としても利用できます。



RECOMMEND 04

倉林 秀男(交流文化学
科非常勤講師)、関戸 冬彦
(言語文化学科非常勤
講師)分担執筆
「クラッシュ・ザ・バリエード
個を超えて、分断を越えて」
金星堂 2024年3月 2800円

本書では、種々の他なるものとして在る人間の普遍的な面(在ること、生、宇宙など)について焦点を当て、文学、言語学、英語教育学という英学の主要分野から多角的・多元的・学際的・横断的に考察することを目的としています。



RECOMMEND 05

高田 淳子(経営学科非
常勤講師)分担執筆
「情報サービス論—第2版」
学文社 2024年3月 2000円

「情報サービスとは何か」を考える前提として、まず「情報とは何か」「サービスとは何か」という本質論から語り起こし、本当に有用と思われる信頼できる情報・情報資源を、知識を総動員して提供するという情報サービスの本質を説きます。



RECOMMEND 06

浜本 光昭(国際環境経済
学科教授)著
「新・環境経済学入門講義」
創成社 2024年3月 2200円

環境政策をめぐる環境経済・政策研究の最新の成果や地球環境問題を取り上げた1冊。各章のコラムもあわせて読むことで、環境経済学の理解がより深まります。



RECOMMEND 07

綱谷 社介(法律学科准
教授)共訳
(ライダール・マリス著)
「カント政治哲学のコンテ
クスト」
知泉書館 2024年3月 4000円

カントの政治哲学に関わる論争的な言説を追究することにより、18世紀ドイツにおける公共圏の形成についてカント哲学の貢献を検討。自由の権利の正当化、平等の扱い、そして国家の権威、という3つを主要課題とし、これらに関わる彼の法哲学と政治哲学の解明を通して近代哲学創始の瞬間をも明らかにします。



RECOMMEND 08

秋本 弘章(経済学科教
授)分担執筆
「社会科教育事典 (第3版)」
ぎょうせい 2024年4月 5200円

改訂学習指導要領や時代の潮流にマッチした最新の項目を盛り込んだ大改訂。一線の研究による確かな論考が満載。先行研究の分析、様々な実践の見方や捉え方、教育課程行政、海外の動向など、多くの知見を提供します。



RECOMMEND 09

石井 保雄(名誉教授)、
榎原 嘉明(法律学科教
授)分担執筆
「就活生のための労働法
入門」
中央経済社 2024年4月 3000円

労働法の知識が切実に必要なのは、これから働き始める経験の少ない若者です。大学で教育を行う執筆陣が、就職活動を控える学生を読者として制度の成り立ちと趣旨を解説します。



RECOMMEND 10

浦部 浩之(言語文化学
科教授)分担執筆
「エルサルバドルを知るた
めの66章【第2版】」
明石書店 2024年5月 2000円

冷戦後の復興と民主主義国家建設のケースとして小国ながら国際的に注目されているエルサルバドルは、1992年の和平合意から30年経ち大きく変わりつつあります。本書は、変貌するエルサルバドルを政治・経済・社会・文化などの観点から総合的にとらえます。



RECOMMEND 11

小波津 ホセ(言語文化学
科非常勤講師)分担執筆
「多様な学びの場をつくる
外国語につながる学習者
たちの教育から考える」
明石書店 2024年5月 3200円

移民がホスト国に定着するために必須と考えられる教育の現状を考え、現在の公教育、高校・大学での外国につながる子ども・若者の受け入れはどのように、どの程度進んでいるか。子ども・若者の居場所づくりや学びの場にかかわる執筆陣たちが多様な視点から考えます。



RECOMMEND 12

會田 廣範(経済学科非
常勤講師)共編
「文化財が語る日本の歴史
政治・経済編」
雄山閣 2024年5月 3000円

古代・中世・近世・近現代と時代を通して、文化財を読み解き、日本の歴史のおもしろさを紹介。石碑・地図・絵巻・神社文書・刀剣・近世城郭・地方文書・仏像・演説指南書・銅像・絵画館・橋・戦争碑などを取り上げ、日本の政治・経済史の実像にせまります。



RECOMMEND 13

金子 芳樹(英語学科教
授)共編著
「ASEANを知るための
50章【第2版】」
明石書店 2024年6月 2000円

ASEAN結成60周年が近づき、2023年には日本との友好協力関係50周年を迎えた。国際情勢の不安定度が増すなか、「東南アジアにおける平和的発展の擁護者」としての地位と役割を維持していくためにASEANが直面する課題とビジョンを広範に論じます。



RECOMMEND 14

田中 善英(フランス語学
科教授)著
「つぶやきのフランス語
基本語ドリル」
白水社 2024年6月 2200円

単語を覚えると、語学の学習はさらに楽しくなります。フランス語の基礎語彙を、愉快で日常的な言い回しを通して、繰り返し練習。ひとつの課は30問、全体で1800題。理解を助けるワンポイント解説ほか学習者の悩みをしっかりと解決。



RECOMMEND 15

森永 卓郎(経済学科教
授)著
「がん闘病日記」
三五館シンシャ 2024年7月
1500円

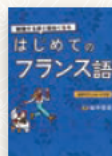
突然の余命宣告から、治療法の選択、がんとお金、人生観まで、著者渾身の闘病記録です。



RECOMMEND 16

田中 善英(フランス語学
科教授)著
「勉強するほど面白くなる
はじめてのフランス語」
新星出版社 2024年8月 1500円

特徴的な発音、文法上の性とそれによる活用変化など、フランス語には「慣れ」が必要な要素がたくさん。これらの壁を楽しく乗り越えるために、毎日少しずつ進められる構成、分かりやすい解説、理解を助けるための例文(音声付き)を準備。練習問題で理解度のチェックと苦手な部分の可視化ができます。



RECOMMEND 17

鈴木 道彦(名誉教授)監
修(鈴木 信太郎著)
「鈴木信太郎巴里日記
1954」
同月社 2024年8月 2000円

日本フランス文学界の黎明期より活躍し、多くの後進を育てた鈴木信太郎のバリ滞在記。1954年6〜9月、ヴァルヴァンのマルメ宅訪問や、森有正、大岡昇平、福田恒存、加藤周一、中村光夫といった面々との交流等が記録されています。



RECOMMEND 18

北野 収(交流文化学
科教授)編著
「新・共生時代の地域づ
くり」
三恵社 2024年9月 3200円

学習と協働が地域づくりを变える。自らの生活・文化・環境を守り、改善していくことが「地域づくり」の要諦。人々が幸せを実現するための潜在能力の発揮を、どうサポートするか。本書でとり上げた諸実践は、本当の住民のための地域づくりに、新たなアプローチを教えてください。



2024年度春学期

「学生による授業評価アンケート」結果報告

授業評価アンケートは、授業に対する学生の皆さんの意見を伺い、今後の授業内容の改善を目的として各学期末に実施しています。アンケート結果は授業毎に集約し、授業を担当している教員や授業を開講している学部、学科にフィードバックしています。

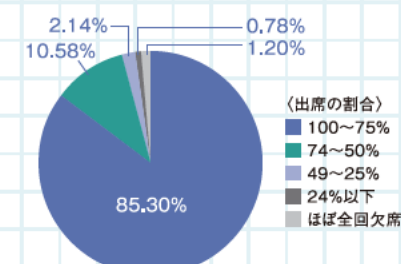
2024年度春学期の授業評価アンケートは無事終了しました。大学全体での集計結果をご報告します。個々の授業の集計結果は、PorTaIIをご覧ください。

◆実施状況

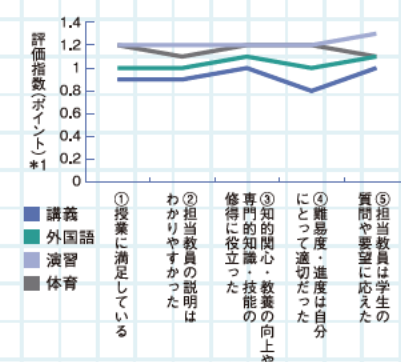
2024年7月8日(月)～2024年7月31日(水)
PorTaIIにて実施

	対象者数	回答者数	回答率
24年度春学期	8,359	3,273	39.15%
23年度春学期	8,252	3,119	37.79%

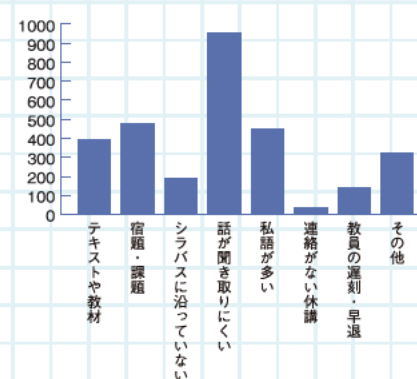
1.出席状況(全学平均)



2.授業評価(授業形態別)



3.各授業の問題点(複数選択可)※2



※1 授業に関する5項目の質問の回答を「そう思う＝1.5」「ややそう思う＝0.5」「あまりそう思わない＝－0.5」「そう思わない＝－1.5」「わからない＝0」として、平均値を算出し、評価指数(ポイント)としました。

※2 延べ回答件数：22,179件

ぶ-ら-り-ら-い-ぶ-ら-り

Vol.112

電子図書(オンラインブック)を利用してみよう!

自宅にいながらオンラインで読むことができる「電子図書」があるのをご存じですか?
今回は、おすすめのプラットフォームと、英語学習での活用法をご紹介します。

01 Maruzen eBook Library

「購読契約から検索」に
チェックを入れて探してみよう



※学外からのアクセスにはVPN接続が必要です

02 LibrariE (ライブラリエ)



※利用にはID・パスワードが必要です

03 KinoDen



※学外からのアクセスにはVPN接続が必要です

英語学習には、「英語多読本」を活用してみましょう!

英語多読って何?



たくさん本を読んで、
英語を英語のまま理解し、
徐々にレベルを上げていく学習法です。

01 Maruzen eBook Library
で読めるシリーズ

■Foundations Reading Library
アメリカのティーンの日常を描いたフィクション。友情、恋愛、サークル活動など親しみやすいテーマです。

■Macmillan Readers ■Page Turners
■Atama-ii Books ■Girlz Rock!
■Boyz Rule! ■Cambridge Experience Readers

02 LibrariE
で読めるシリーズ

■Oxford Bookworms
古典、現代フィクション、ノンフィクションなど、さまざまなストーリーを楽しめます。

■IBC Ladder

まずは、やさしいと感じるレベル
から始めてみてください。



詳しくは「獨協大学図書館ホームページ」▶図書・資料を探す▶オンラインブックをご覧ください。

COVER STORY



【表紙の人】

[写真] さん

国際教養学部
言語文化学科3年

11月号の表紙を飾ってくれたのは、国際教養学部言語文化学科の[写真]さん。勉学、学友会活動をはじめ、新しい出会いを大切に、興味のあふ分野に挑戦しています。

英語とスペイン語を学びながら、スペイン語圏や日本の文化、経済の授業等幅広く履修し、「語学をどう使うか」を考えています。特に重視しているのはインプットとアウトプットのバランス。学んだ語学を実際に使ってみる。日本の寺社について学んだら実際に足を運んでみる等、積極的に行動されています。

また、所属する舞踏研究会では、「自分が楽しむからこそ周りの人も楽しめることを学んだ」という青木さん。大会に向けて自身のダンス技術の向上に努めながらラテン技術部長として1年生にダンスを教えています。

本学オリジナルアパレル誕生！ ECサイト【DOKKYO】MARKETにて販売中

4月26日より、創立60周年記念企画として開発した本学オリジナルアパレル商品の販売を、ECサイト「【DOKKYO】MARKET」にて開始しました。

この企画は、還暦にあたる60年を機に本学のイメージを刷新するとともに、関係者の愛校心の育成を目的とするもので、商品開発は学生と教職員のプロジェクトにより実施しました。商品はTシャツ、パーカー、キャップ等のアパレルとペンやウォーターボトル等の雑貨を含め幅広いラインナップが揃いました。今後はシーズン毎に商品の入れ替えを行う予定です。皆さんも獨協ブランドのアパレルを身に着けて、街に繰り出そう！

<https://collegemarket.jp/collections/dokkyo>



第60回雄飛祭 11月1日(金)・2日(土)

テーマ「つなぐ」 来場者と学生・教職員がつながり、
獨協大学のコミュニティを掘りましょ！

【イベント】

＜両日＞ ■学生団体による展示・ステージ発表／模擬店 ■バブルサッカー
■謎解きゲーム／ホラーハウス／緑日／絵馬掛所／光る絵販売／カフェ
■展示「雄飛祭の歴史」 ■フリマ／そうか革市
■イルミネーション

＜1日＞ 10～19時(CS*会場は11～17時)

■開祭式 ■コンサート ■獨大グッズ販売

＜2日＞ 9～19時(CS*会場は10～17時)

■開祭式

*獨協大学コミュニティスクエアの略



Instagram▶



◀HP



第61期 学友会選挙 学友会委員長/会計監査団長/ 正会員選出議員

学友会会員(全学生)に選挙権があります。忘れずに投票しに行こう！【学生証必携】

投票期間：11月11日(月)～15日(金)＜時間：各日12：45～13：25＞

投票所：雄飛ホール(学生センター1階)

開票結果発表：11月19日(火)10：00

*公示は全て学友会掲示板(学生センター入口・ウェルカムプラザ)を通じて行います。

獨協大学学生サポート寄付金募集協力をお願い

本事業は、「よりよい社会の構築に貢献する人材」を育成すべく、国際化推進、地域連携・地域貢献、学友会活動、自律学習など、学生の活動全般を広く永続的に支援することを主眼としています。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

※クレジットカード決済、コンビニエンスストア決済、インターネットバンキング(Pay-easy)、銀行振込等をご利用いただけます。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。
<https://www.dokkyo.ac.jp/donation/>

※法人の方は直接お問合せください。

所管 獨協大学総合企画課 TEL.048-946-1635



獨協大学創立60周年記念講演会

「現代に生きる天野貞祐の教育哲学 ——戦後教育と獨協大学——」開催

日時：11月15日(金) 15：30～17：00(開場15：00)

講師：貝塚 茂樹 氏(武蔵野大学教授・放送大学客員教授)

会場：A-207 教室(天野貞祐記念館2階)

対象：学生・教職員ほか

入場：自由(無料)／事前申込不要

オンライン配信：有(要・事前登録／HPを確認のこと)

創設者・天野貞祐先生の教育哲学を振り返ることで、これからの獨協大学について考える機会とします。

学生、教職員の皆さんは、ぜひご参加ください。



DOKKYO



Sustainable Development Goals

第10回伝右川再生会議 2024

日時：11月16日(土) 14：00～15：30

会場：獨協大学 天野貞祐記念館大講堂(入場無料・事前申込不要)

伝右川は獨協大学に隣接する身近な河川です。獨協大学は学生による河川の水質調査やカヌーを利用したごみ拾い、自転車のサルベージなどさまざまな活動を通して、河川の環境改善に取り組んでいます。伝右川再生会議は2014年の第1回の開催以降、再生活動を推進する団体と河川の浄化・再生に向けて議論してきました。

第10回の記念会議では、大野元裕埼玉県知事に埼玉県河川行政について基調講演をいただきます。さらに、学生とのパネルディスカッションを通じて伝右川再生に向けた地域の連携と大学の役割について知事と意見交換を行います。ぜひ、皆さんの参加をお待ちしています。



編集 総合企画課(中央棟2階) TEL.048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者 大久保 賢斗(営3年) 岡田 陽依(英4年) 片柳 月奈(営3年)
【五十音順】 金田 夏実(律3年) 川合くるみ(営1年) 黒木 健登(律3年)
齋藤 史空(英4年) 佐々木那智(仏1年) 島田 瑞里香(済3年)
庄司 光希(総4年) 土田 優衣(営3年) 土屋 日花莉(律3年)
原 友里恵(英4年) 柳澤 真理子(営3年) 渡邊 帆風(営3年)

略称表記(学科) 独…ドイツ語／英…英語／仏…フランス語／交…交流文化／言…言語文化／
済…経済／営…経営／環…国際環境経済／律…法律／関…国際関係法／総…総合政策



<https://www.dokkyo.ac.jp/>

次回は1月号(1月7日発行予定)です